

語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

その他

絵本の箱

投稿日：2019.06.28 ニックネーム：ちろりん

26日のラジオ深夜便の童話のお話を聴きました、正確に言うと眠ってしまったのでリアルタイムではなく聴き逃し便で2回聴きました、再放送ではなく聴き逃しサービスで何回も聴けて便利な世の中になったものと嬉しく思います。私も昭和11年の生まれなので幼稚園の頃はまだ平穏でしたが国民学校の時は疎開世代でそれでも家に小公女も小公子もあったので夢中で読みました、今改めて家族の優しさを感じ又読み返したい想いです、最近は家族間の哀しい出来事が頻発していますので。生命誌の由来もよく分かりました、有難うございました。

お返事

投稿日：2019.07.03 名前：中村桂子館長

お聞きいただきありがとうございます。
「眠ってしまったので」はとてもよくわかります。あの時間は眠っている方が健全ですよ。
私たちが子どもの頃のお話に出てきた大人たちがすてきだったなと思いながら、今の大人、つまり私たちのことを反省しています。子どもたちに大人は素晴らしいと思ってもらえているか・・・あやしいですね。

季刊「生命誌」

祝：BRH CARD 100号

投稿日：2019.06.25 ニックネーム：相模のラクダ

祝【中村館長 及び 職員の皆様へ】
●まずは、BRH 生命誌 cards 100号 記念 おめでとうございます。これも、館長と職員の方々の26年間の努力の賜物と感じました ●幅広い各分野99人の「達人」の方々の対談は有意義で 色々な考え方があることを実感しました ●国際科学雑誌に掲載された貴館 各先生方の高レベルで興味深い「研究:RESEARCH」では 大きな成果が出ていますね！ ●記念のBRH cards 100、101号は、きっと1年程前から 企画立案、準備された結果の産物で、今までの貴館の歴史も理解できて良かったです ●中村館長のお写真付「生い立ち」も、《な～るほど》っと思ひ、人生色々だな～ということ再認識しました ●研究者(サラリーマンも)に必要なのは ①好奇心 ②やる気と実行力 ③学力と成果 ④先輩や先生の存在 ⑤[運も]と感じました ●学生たちが生命誌の研究と表現を実現場で体験できる「サマースクール」もミスマッチを防ぐためにも良い企画と感じます ◆今後、中村館長が どういう方向に注力されるのか 思いをお聞きできれば幸いです ●G20大阪サミットが開かれます。どこかの会社のCMではありませんが、100年、200年後の人類が良い意味で、過去の『生命誌』をしっかりと理解し、人文・科学共に発展していけることを希望します ●cards 101号も期待しています。それ以後についても、国際的な各トレンドを鑑み 今回の様に変革して行ってください ●最後の「紙工作:ポップアップ年表」は グッドアイデア かつ、最大寸法品で 工夫されており 分野別の年表を視覚的に理解でき、作り甲斐もありました！ ●では[働き方改革]を実行しつつ お体大切に 貴館長、皆様の更なるご活躍で 研究館の深化されることを願っています。では、・・・

新着情報

- [10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)
- [10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)
- [昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)
- [パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)
- [あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

お返事

投稿日：2019.07.02 名前：中村桂子館長

100号への感想ありがとうございます。
おっしゃる通り、皆でコツコツやってきたなあと思います。そして本当にありがたい応援あったることだなあとしみじみ思います。
ただ、ここでしみじみしているだけではダメという現実があり。101号は
どうなるか・・・考えることはたくさんあります。よろしく願いいたします。

その他

生命誌絵巻と生きる

投稿日：2019.06.20 ニックネーム：源ちゃん

扇の生命誌絵巻を常に手元に置いて眺めています。最近判かった事ですが、お釈迦様の示した久遠実状は永遠の生命です。自ら永遠の生命をもつ、自ら人々を救うの表現が何故かしっくりとしなかったのですが、絵巻を眺めると自然に永遠の生命が38億年続いて凄いなと思いました。お釈迦様はこれに気づいて「永遠の生命」をお示しになられたのかなと思うと、嬉しくこれからもこの絵巻を自分の宝にして生きたいと思いました。

お返事

投稿日：2019.06.20 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。「生命誌研究館」を始めようとした時にまず「生命誌絵巻」を描きました。言葉で説明するのではなく扇という形、さまざまな生きもの、そして色彩などに語って欲しいと思ったのです。それは見て下さる方によってさまざまな受け止め方をさせていただいて広がりを持つからです。まさにそのような形で見ていただけてありがたく思います。私も、いつも絵巻を手元に置き、さまざまなことを考えています。



中村桂子の「ちょっと一言」

季刊生命誌100号おめでとうございます

投稿日：2019.06.20 ニックネーム：やっちゃん

季刊で100号は偉大です。まさに「継続は力なり」ですね。
私は新参者ですが、高槻の生命誌館へは二度お邪魔しております。
忘れられないのが、ナナフシの展示と肺魚くん。生命の不思議さにその場に立ち尽くしました。このような場が、子どもたちや孫たちや、その先の子どもたちへ用意されていることが必要と考えます。
6月の保育園では、トマト、キュウリ、ナス、トウモロコシをプランターで育て、カタツムリを観察しています。今年は「タネ」に注目して、サイズに挑戦します。1粒のタネが子どもたちへ大きな贈り物を与えてくれるよう、子どもたちと一緒に世話をしつゆこうと思います。

お返事

投稿日：2019.06.20 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。
100号にはこれまでのことを思いきり詰めました。「生命研究館ってなあに」と聞かれたら、これを差し出せばよいかなと思っています。そして今私たちがやっているのは101号の準備です。これは、「これから」にするつもりですので、何が入るか。私たちにもまだわかっていないことばかりです。それだけに考えるのが楽しみでもあります。御意見をお寄せ下さい。正直、たくさんの方からの100号への反応を期待しているのですが・・・。



中村桂子の「ちょっと一言」

絵巻の中の人々と私

投稿日：2019.06.14 ニックネーム：j・h

先日、京都国立博物館で開催された一遍聖絵の展覧会に行ってきました。庶民の日常の暮らしも描かれ、社会的弱者とみられる人々やあらゆる身分の人々一人ひとりの豊かな表情も楽しいのですが、絵巻には珍しくところどころに登場する野良犬やカラス、オナガドリ、白鳥や猿など見ていて飽きません。他の絵巻物にはない多くの生きものや、多様な人々の営みに対する視線に何か生命誌に通じるものがあるように感じます。建物、樹々や山々など時代の空気まで伝わってきて絵本好きの私にはたまらない空間でした。この絵巻を見て、800年前鎌倉時代の人々も今生きている私につながっているのねと、とても身近に感じられました。

お返事

投稿日：2019.06.18 名前：中村桂子館長

絵巻の面白さが伝わってきて、観に行きたくになりました。野獣やカラスというのも、とても日常的ですし。絵巻には時間の流れがあり楽しいですね。ありがとうございます。

その他

5/18 シンポジウムに参加して

投稿日：2019.06.13 名前：井上道代

(ちょっと遅くなりましたが、) 5/18の国立遺伝学研究所との共同シンポジウムに参加させてもらいました！最先端の研究を、一般の人にもわかりやすく話していただき、わくわくして聞きました。(脳味噌フル回転でしたが！) 聞いていて、へ～と思ったものの、この解釈で間違っていないのか不安な部分があったのですが、時間がなくなり質問できなかったので、この欄に書かせてもらいます。DNAが、どのように収納されているかという話がありましたね。アセチル化は、隙間が空き蛋白質が動きやすくなっている状態で、メチル化はぎゅっとくっついていて蛋白質が動きにくい状態とのこと。そしてそれは、塩(Mgイオン)の濃度で変わるとのこと。メチル化アセチル化の事を生命誌研究館で知り、その仕組みが一步深く解ったようで嬉しかったです。(あっていますか?)

また、DNAの複製は、光合成や呼吸が活発でない夜間に主に行われる(光合成や呼吸でうまれる活性酸素はDNAには毒)との事。無理に夜間光を当てると、複製されたDNAに傷が多くなるとの事。この話は、「寝る子は育つ」・生活リズムの大切さ・良い睡眠は健康に大切・等々、子育てや人の体について以前より言われてきた事の、DNAレベルでの根拠なんだなあとわかって、やっぱり生き物の仕組みが理に適っていて、すごいなあと改めて感じました！(あっていますか?)

お返事

投稿日：2019.06.21 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

シンポジウムにご参加いただきありがとうございます。研究者がどんな問いに挑んでいるのか、最新研究の話を専門家だけでなく、たくさんの方と楽しみ、一緒に考える場づくりを大切にしているのでこれからもぜひ研究館の催しにいらしてください。ご質問に宮城島先生からご回答いただきましたので、下記に記載いたします。

=====

>また、DNAの複製は、光合成や呼吸が活発でない夜間に主に行われる
>(光合成や呼吸でうまれる活性酸素はDNAには毒)との事。無理に夜間
>光を当てると、複製されたDNAに傷が多くなるとの事。この話は、
>「寝る子は育つ」・生活リズムの大切さ・良い睡眠は健康に大切・
>等々、子育てや人の体について以前より言われてきた事の、DNA
>レベルでの根拠なんだなあとわかって、やっぱり生き物の仕組みが
>理に適っていて、すごいなあと改めて感じました！(あっていますか?)

(お返事)

細胞、それらから出来ている生き物には、例えば高い呼吸活性とDNA複製など、同時に行くと不都合が生じるものごとが多々あります。その解決策の1つとして、生物時計(細胞時計)に従って、いろいろな物事を時間で分けて行うことが挙げられます。

時差ぼけになると調子が悪くなるのは、時計が狂ってしまい、物事の時間分業がうまくいかなくなるせいだと思います。

おっしゃる通り、究極的には、きちんと睡眠を取って、朝は日光に当たるのが成長や健康維持に大事ということに成ると思います。



中村桂子の「ちょっと一言」

RE:ダマシオと生命誌

投稿日：2019.06.13 ニックネーム：ミッキー

コメントありがとうございます。まだ理解できていない所が沢山あり、表現が稚拙だった所もあったと感じています。これからも身近に置いて、ゆっくり楽しもうと思います。特に脳神経科学に興味が湧くようになったので、もっと学びたいと思います。

お返事

投稿日：2019.06.18 名前：中村桂子館長

こんなにわからないことがたくさんあり、それを考えることが楽しく、また大切なのに、それをせずにすべてわかったように振る舞う人々が社会を動かしているのは困ったことだと思っています。



中村桂子の「ちょっと一言」

ダマシオと生命誌

投稿日：2019.06.09 ニックネーム：ミッキー

アントニオ・ダマシオの「進化の意外な順序」を読みました。理解は十分ではありませんが、内容は驚きの連続でした。この本に関する中村館長のちょっと一言（3月15日）をベースにさせていただいて、学んだ事、感じたことを箇条書きにしてみました。ご一読いただければ幸いです。

1. 「ホメオスタシス」は生命活動の基軸で、この本の影の主演です。ダマシオは「なにがあっても生存し未来に向かおうとするプロセスの集合」と表現しています。確かに庭に生える雑草には、いのちの逞しさを感じます。

「感情」はホメオスタシスの状況が表現(表象)されたものであり、その「感情」が意識、知性、文化の構築に重要な役割を果たすという彼の説は驚きです。感情といえば脳の「扁桃体」がすぐに浮かびますが、彼は「内臓（の状態、ホメオスタシスの状況）」が「感情」の始まりだとしています。内臓は、体の中でも進化的に最も古い組織なのだそうです。

2. 心の始まりとして、神経系の出現が必要で、外界からの刺激を神経系でマップしてイメージとして捉える能力が“必須”だと言います。したがって単細胞生物は、あたかも社会性のある行動を見せるが、それはホメオスタシスの規則に従っているだけだと言ひ、ハチやアリの社会性行動も、心を持った結果の行動ではないと言います。生きものは進化の過程のどこかで「心」を持つに至ったが、それがいつかは定かではないそうです。専門家として、彼の“心の定義”はとても厳格です。私はもっと広く捉えて、感情の起源であるホメオスタシスの規則が働いているのなら、単細胞生物(受精卵も含めて)も心を持つと考えたいし、また、そう感じます。

3. 生物学的自然主義者サールの唱える「伝統的な心体二元論は間違いである。」を支持するかのようひ、ダマシオは「脳と身体の間には緊密で永続的な結合がある」と言ひます。例として、「脳幹」にはa.脳から身体の手消に向かう神経束と、逆にb.身体の手消から脳に集まる神経束があります。a.の部分に脳梗塞が発生すると、意識はあるが身体が動かなくなります。逆に、b.の部分に脳梗塞が発生すると“意識がなくなる”そうです。つまり、体からくる神経系から切り離された脳は意識を保てないそうです。驚きです。まさに、心と身体は一体なのですね。

4.ダマシオと生命誌

この本はとても素晴らしく、専門用語を調べながら読むのは、時間はかかりましたが大変勉強になりました。しかし、読みながら何かしら違和感を感じていたのも事実です。最近、その理由に気が付きました。生命誌の感性はヒトを含めたすべての生きものを同一平面、同一円周上に置きます。しかし、ダマシオの感性は生きものをピラミッドに配置し、人間をその頂点に置いて、特別視しています。同じ事実でも、感性や価値観が異なれば見え方は違ってくると思います。私は生命誌の感性で生きものを見るのが好きです。ダマシオの卓越した神経科学の知識を学び、「ホメオスタシス」を「生きものらしさ」と表現する生命誌の感性をもっと育てたいと思います。よい本をご紹介いただきありがとうございます。ありがとうございました。

追伸：3.はダマシオのTEDプレゼンテーションも参考にしました。

お返事

投稿日：2019.06.11 名前：中村桂子館長

ダマシオお読みになっての感想、ありがとうございます。
おっしゃる通り、人間中心のところは生命誌と違いますが、脳研究者としてここまで考えているというところに関心を持ちます。それを「意外な順序」と言っているわけですが、生命誌の立場からは意外ではなく、これがあたりまえでしょうと思っています。さまざまな切り口から少しずつ近づき、新しいことを明らかにしていくのが面白いところですので、異なる分野の人の考えを知ることは大事です。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2019.06.04 ニックネーム：後世おそるべし

中村先生が好きなので読んでいます。

お返事

投稿日：2019.06.04 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

ご回答ありがとうございます。掲載とお返事が遅れて大変申し訳ありません。中村館長にご関心をもって季刊誌お読みいただいているとのこと、ありがとうございます。当ホームページ上の「[生命誌アーカイブ](#)」では、中村館長と様々な分野の方との対談記事（TALK）をはじめ、記事の広がりを一覧できますのでぜひまたご覧ください。お考えになったことをまたお聞かせください。

お返事

投稿日：2019.06.05 名前：中村桂子館長

好きって言っていただけると優しい気持ちになれて嬉しいです。季刊誌への注文をお寄せ下さい。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2019.06.04 ニックネーム：レフティ

NHK-B Sのスペシャル番組で「池内博之の漂流アドベンチャー」という番組がありました。（2019. 3. 24）. その番組で、吉村昭さんの「漂流」という小説があると聞き、ぜひ読みたいものだ、注文したところでした。要するに、絶海の孤島鳥島へたどり着いた話です。
そして更に、番組に出てきた「アホウドリの調査をしている人」、びっくりしました。超有名な長谷川博さんではありませんか？
小生も若ければな～、私も京大迄とは言えないけど、このような研究の道に進みたかったな～と77歳になり死を毎日意識するようになり、人生はなんだったのかと、強く思います。

お返事

投稿日：2019.06.04 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

サイエンティスト・ライブラリーに登場いただいた長谷川博先生についてのコメント、ありがとうございます。42年間鳥島に通い、独力でアホウドリの研究と保全に尽くされたという人生、なかなか成し遂げられることではないと思います。先生の生き方はとてもユニークに見えますが、どんな人生も、生きた年数だけ挑戦の連続であり、アドベンチャーである点は同じなのではないでしょうか。

お返事

投稿日：2019.06.05 名前：中村桂子館長

「アホウドリと僕の42年間」の取材では、長谷川先生にお話を伺ってこちらものめり込んでいきました。確かにすてきな生き方ですね。でも…と自分をふり返り、私は私として生きてきたよなあとと思うのです。年を重ねるといろいろ思うことはありますが、自分なりにと…

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2019.06.04 ニックネーム：草取り爺

小生、公務員OBの団塊世代71歳老人です。水道、水処理屋として技術や土木史を勉強して参りました。現役時代、技術士（水道、衛生工学、建設、総合技術監理）などの資格が取れました。お陰で、非常勤ながら会社員です。さて、貴誌の記事に巡り合えたのは、小生午前中は図書館、午後は長崎街道一里塚「小嶺地蔵」へお参り（般若心経）、境内の掃き目掃除しています。帰途は貸農園で野菜作りの助言や、老人ホームの花壇のお世話を焼いています。今日、花壇の水やりをお願いしたところ、追いかけてきてお茶のお接待をいただきました。20年前の四国遍路を思い出しました。図書選択は朝日（土）、読売（日）の書評から読みたい本を市図書館にリクエスト申込書に出しておきます。すると、3回に1回は新刊が届きます。新刊だけでなく古い本「西遊草 清河八郎」、「皇太子の窓 ヴァイニング」など圧巻でした。

その中に「Beautiful Cure 美しき免疫」Daniel.M.Davis,NHK出版があり、毫碌帖にメモ（16ページ）しながら精読しました。その中で、「坂口志文」先生が本庶佑先生より多くのページで紹介されていました。坂口先生をネットで検索したところ、「ゆらぐ自己と非自己」に会い、理解を深めるとともに、さらに「利根川先生」の功績も理解できました。

つきましては、貴誌（季刊誌）のご恵与を戴ければ幸甚のこと、この上ございません。バックナンバー数冊のご恵与も希望します。何卒よろしく願い申し上げます。

お返事

投稿日：2019.06.04 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

ご回答ありがとうございます。様々な活動を通して1日1日を大切に過ごされていることが伝わってきました。サイエンティスト・ライブラリーの坂口志文先生、利根川進先生の記事をご覧いただき、ありがとうございます。様々な細胞や分子が動く免疫の全体像は複雑で、私たちも免疫の研究者に取材すると「難しい！」と心の中で叫んでしまうことがしばしばです。でも生きものの複雑さ、巧妙さを体現するしくみだと思っています。そんな免疫の研究に取り組む研究者の姿勢には学ぶところがたくさんで、坂口先生に取材した際はその静かな情熱がじわじわ伝わってきたのを覚えています。季刊誌では免疫に関する記事が他にもたくさんありますので、ぜひお楽しみいただけると幸いです。

季刊誌のお送りについては、[こちらの申し込みフォーム](#)よりご送付先を登録いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

お返事

投稿日：2019.06.05 名前：中村桂子館長

生命誌研究館を始めてからの四半世紀に、とても面白く展開した研究分野はいろいろありますが、免疫はその一つです。びっくりするほどムダがあるなど、生きものを知るうえでも教えられますし、病気との関連も大事です。いろいろなことが少しずつわかってくる面白さを教えてくれる研究の歴史です。季刊誌を入りに生きものの面白さ、楽しんで下さいませ。



中村桂子の「ちょっと一言」

あるまじろ

投稿日：2019.06.03 ニックネーム：みかづきも

アルマジロを調べました！

すべてのアルマジロが丸くなるわけではないそうです。写真をよく見るとヒダがあり、そのヒダの数でミツオビアルマジロと名前がつけられているものが、曲がるそうです。また、亀の甲羅のような、頑丈な皮骨があり、前後が湾曲しているので、手足の稼動範囲がせまく、ちょこちょこ歩く事になるそうです。大哺乳

類展に骨格標本が展示されているのを見ました。

私は人の話をきいて「なるほど!」と思う事が好きな割には、自分で調べる事もしないめんどくさがり屋で、若い頃に研究の道に行かなかったのは、それが理由なんだと思います。そして、無意識に質問もしてしまうことがあります。自分で知りたいこと、自分で調べて楽しかったです。

ついでにアルマジロに似ていると思っていたセンザンコウは、写真をみたら全然違って、西洋の鎧のような、日本の自在置物のようなウロコでした。

お返事

投稿日：2019.06.06 名前：中村桂子館長

調べて下さってありがとうございます。「自分で調べて楽しかったです」という言葉が素晴らしいですね。また広がったら教えて下さい。

[▲ ページの先頭へ](#)

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [プライバシー](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.